平成２４年度第１回宗像市幼児教育審議会

議　事　録

期　日：平成２４年１０月２５日（木）
時　間：１９：００～２０：３０
会　場：宗像市役所２０１会議室

審議会委員					
田中　敏明	○	村田　昭孝	×	納富　恵子	○
吉田　靖生	○	元岡　充代	○	内田　龍男	○
髙杉　洋史	○	奥村　美香	○	假屋　和代	○
上野　大地	○				

事務局			
柴田　祐治	中野　万由美	髙橋　知子	安川　尚美

配布資料
- 宗像市幼児教育振興プログラム
- 宗像市幼児教育振興プログラム進捗状況
- 宗像市幼児教育審議会委員名簿
- 宗像市幼児教育審議会規則
- 平成２４年度事業計画について
- 平成２４年度保育所・幼稚園子育て支援地域開放事業
- 幼児期の子育て（リーフレット）
- 子育ち・親育ち・家族育ちのための１１の提言（リーフレット）

１．挨拶
　柴田部長挨拶

２．委嘱状交付
　机上交付

３．委員自己紹介
　委員及び事務局自己紹介

４．会長、副会長選出

会長　田中敏明氏、副会長　髙杉洋史氏で決定

５．議事

（１）　議事録の作成方法

③会議内容の要点を記録する方法　とする。

（２）　幼児教育振興プログラムについて

事務局より、幼児教育振興プログラムの概要と幼児教育振興プログラムの進行状況について説明。（説明内容省略）

○　進捗状況の表中平成２４年度、平成２５年度について

・この資料に挙げられている具体的施策は既に決定している事項なのか。

→これらの具体的施策を協議する機関はいろいろあるが、主な機関としては幼児教育研究協議会といって、小学校からは校長１名、教諭２名、保幼から２名ずつ、指導主事１名で構成されており、年４回開催している中で検討している。

・平成２５年度とある事業については、平成２５年度以降になることもあると考えてよいか。

→あくまでも予定であるため、この幼児教育審議会でご意見をいただければ、反映していくつもり。是非、ご意見をいただきたい。

○　組織の位置づけについて

・幼児教育審議会と幼児教育研究協議会の関係など、審議内容との兼ね合いでよくわからないので、教えていただきたい。

→幼児教育審議会は、主に幼児教育振興プログラムの策定と進行管理となり、具体的施策についてご意見をいただく。

幼児教育研究協議会では、各現場の状況等をもとに具体的な事業内容について検討するところとなる。幼児教育研究協議会で協議した内容をこの幼児教育審議会で審議していただき、ご意見をいただくという流れになる。

連絡会は情報の共有と連携の強化を図るためのものになる。研修会は資質向上を図るために市が主催して行う研修会となる。

○　幼児教育振興プログラムの目標について

・宗像市がめざす「幼児像」と基本施策の「目標１～目標６」とあるが、この両者の関連はどのようになっているのか。６の目標を通して幼児像を目指すことになるのか、「幼児像」は「幼児像」として目標であり、「６つの目標」は保幼小連携をめざした目

標として別々にあるのか。もし、前者だとすれば６つの目標の中の具体的な施策に「幼児像」を意識した取組みあればわかるが、その辺をどう理解したら良いのか。
→前プログラムでは、保幼において「あいさつ」を共通目標として取り組みを行ってきたが、プログラム改定にあたり、「生きる力のある宗像っ子」を育てるためには、保幼に限らず家庭・地域など全ての機関・立場において同じ目標を持って取り組むべきであるということで、３つの共通目標が決まった。
事業については、６つの具体的施策を進めていくことでこの目標を達成しながら、子どもを育てるという流れになるが、３つの共通目標をより意識した取り組みをする必要があると感じている。

・最近、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領が改定になって、どれにも保幼小の連携という項目が明文化されてきている。これがあって、保幼小の連携が必要だということで、重点的に取り組んでおられるのだと思う。
・連携についても当然大事だが、連絡会をやるにしても協議会をやるにしても、やはり共通目標についても常に語り、その辺の育ちを意識しながら見ていくことが必要だと思う。
→３つの共通目標を決める時には、幼児を育てていく上での最終的な目標は、小学校側から見て小学校入学前までに、「ここまでは育てておいて欲しい」というところになる。この意見は保幼小連絡会の場でいただいた意見なので、保育所・幼稚園の先生方も共通理解はあると思うが、事業の中ではより共通目標を意識した取り組みとなるようにしていく必要があると思う。
・３つの共通目標があって、それに向かっていくための手段というか方法が６つあると考えたら良いのか。

・特に目標５のところで思うのは、平成２４年度の取り組み状況が挙げられてはいるが、実際には何％くらい相談につながったのか、この事業をやっていることはわかっても以前と比べどうなのかなど、数値化されたものがないと評価しにくい。平成２５年度に向けてどうすべきかというところに結びつかないと思う。できるだけこういったものは数値で実績を示していくべきだし、そうしないと評価できないものだから、できるだけ数値の変化がわかる形で示していただきたい。
→ここでは取り組み状況を整理しただけで終わっているので、言われるように数値化した実績なり、目標なりを次回審議会までに提示していけるようにしていきたい。

○　特別な支援が必要な子どもに対する総合的な支援の推進について
・発達障害等支援対策補助金について、今朝の新聞でゆりの樹の高杉先生の談話が載っているのを拝見したが、「人を一人雇えるほどではないが、非常に助かる」というこ

とだが、市では、この資料を見てもわかるようにいろいろな事業をよくできるなと言うくらい非常にたくさん行われているが、一番懸念されるのは、「どれも中途半端になっていないか」ということ。障害児の補助に関しても人が一人雇えるくらいの額なら、これは効果的だと思える。そこまでの額ではないということになると、中途半端になりあまり意味が無いのではないかと思える。中途半端が一番心配。これに関して園の方からは意見というか実は役に立ってないとか感想というか何か出ていないのか。
・補助金もいろいろあるが、支援・配慮は必要だけれども障害の認定はされない子どもの数がとても多いので、そういう中で園に対して園児の割合で補助金が交付されるというのはすごく成果だなと感じている。確かに金額としてはもう少しというのはあるが。
・人を一人雇える額ではない補助金は、発達障害を抱えた子どもに絡んで市としてはどのように使って欲しいという考えで出されているものなのか。
→これは平成２３年度に新設された補助金で、重度障害で認定されている児童への補助は従来からあったが、各保育所・幼稚園から障害の認定はされないが支援の必要な児童がとても多くて対応が大変厳しいという声が上がり、年々その数も増えているということだったので、要望により補助金を新設している。主には、各園での環境充実に充てていただくことになっている。
　一般的には、市は独自の取り組みと国の施策の中で義務を負いながらやっている部分があると思うが、今回の取り組みは、現場の声を聞きながら、市としてできることを模索して、万全ではないながらもできることをやっているという状況。中途半端と言われればそうかもしれないが、市としてできる金額はここまで位かなというところ。

・北九州市だったかと思うが、最近ペアレントメンター制度と言って、障害のあるお子さんをお持ちの親御さんで子育てがひと段落した方を対象に、ボランティア・助言・アドバイスするといった、障害児の子育てのノウハウを広げる制度・講座があると聞いた。こういった経験のある方たちを対象に養成課程を受けてもらうなどして、保育所・幼稚園などの現場にサポート的に入ってもらうと、ボランティアやちょっとだけ有償で活用すれば現場も助かるのではないかと思う。資格というよりは実際の経験は充分なので金額的にも限られた中での支援であったりするならばこういったところに補助金を使うというのが有効だと思う。限られた予算の中で有効に活用できることを考えてみたらどうか。
・毎日は難しいとしても、定期的にそういった方々が関わるのは良いのではないか。そういった人の人材バンク的なことがあればいいと思う。
・市内の全園にそういった方の人材を確保するのは実際には難しいと思うが、まずは試行的に１園からはじめてみるとか、そういった風にやってみて広げていくのはどうか。

・学校の特別教育支援教員は、教えるのではなく子どもに個別の対応をして担任の補助をする。その教員の資格は小学校の免許を持っている方もいるが、幼稚園教諭だったりもする。資格は限定していないのでいろいろな方がいらっしゃる。
・特別支援教育を勉強している学生のボランティア導入できないか。
→少し古いデータになるが、約５０％程度が既にボランティア活動をしているという状況で、今の学生は忙しくて厳しい状況。地域サービスに参加したら単位が取れるとかあれば違ってくるかもしれない。有償でバイト的にするとか、単にボランティアとするよりは可能性が広がってくるかもしれない。
→４年生を活用するというのはどうですか。
→４年生は卒論があるので、ある程度目途が立っている学生なら可能かも知れない。課程も一通り修了しているわけで、バイト的な感じで、毎日はできないにしても週１日くらいとかで入るだけでも良いのでは。良い実習の機会になるのではないか。
・発達支援の補助金は人材のため、道具のために使ってもいいお金だと思う。園がそういう子に必要なことに使用できれば良いわけなので、それだったら今の補助金の額でもまかなえそうな気がしませんか。そういった感じで検討してみてはどうか。
・実際、園側としては、こういったのはかえって迷惑だということもあったりするので、園の意見も聞きたい。
→他にもいろんな方が園の活動に関わってもらっていることは多いので、またこういう形で関わりが増えることは良いと思う。